

資産運用レポート：富と成功の条件

1 はじめに

折に触れて、読み返している本が何冊かあります。『日本は甦るか』もその中の一冊です。著書はイギリス生まれのピーター・タスカ氏。

1994年の出版にもかかわらず、今でも内容はまったく色あせていません。とりわけ最終章の「富と成功の条件」には投資のヒントがちりばめられています。

今回の資産運用レポートでは、本書に書かれている、ピーター・タスカ氏の金言をいくつか紹介します。

2 もっとも確実な儲け方

ハイテクかローテクかを問わず、いちばん儲かる分野は、生産性の高い競争相手のあまりいないところだ。

たとえば、喫茶店、みやげ物屋、塾、葬儀屋などである

たぶん、企業家にとってもっとも確実な儲け方は、近代経営の原理を、それをまだ経営したことのない業種に導入することだ。

私は銘柄分析を行う際、業界構造を見るようにしています。いちばん望ましいのは、数多くの中小零細企業や個人事業主のひしめき合っている業界です。

その中で、事業規模的に調査対象企業の突出しているケースが狙い目になります。

生産性の高い競争相手のあまりいないところ業界にて、タスカ氏が言うところの「近代経営」を実践できれば、同業他社からシェアを奪う形で成長できるからです。

かつての喫茶店、みやげ物屋、塾、葬儀屋にはこの傾向が見受けられ、ドトールコーヒー（現、ドトール・日レスHD）、寿スピリッツ、明光ネットワークジャパン、公益社（現、燦HD）などが上場企業として注目を集めた時期もありました。

現時点でも、漬物屋、翻訳業、シロアリ駆除など、旧態依然とした業界構造が温存されている業界は少なくありません。銘柄選択において、業界構造に注目するのもひとつの考え方です。